

マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」#16 原作シナリオ

山崎浩治

マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」 # 16 原作シナリオ

1 教会の中

扉が開くと、ウエディングドレス姿のアヤカが立っている。

バージンロードを歩くアヤカ。

その後ろにはブライズメイドとしてドレスを着た菜摘が付き添っている。

祭壇で待つ花婿は一トオル。

オネエ所長や香澄ママ、美鈴、サトシなど列席者には「片町夜曲」の登場人物が一同に顔をそろえ、アヤカとトオルを祝福している。

アヤカの指に結婚指輪を嵌めるトオル。

キスするトオルとアヤカ。

2 いしかわ四高記念公園

赤ちゃんが乗ったベビーカーを押すアヤカと両手に幼児を抱えたトオルが楽しそうに話しながら歩いてくる。

見つめ合って微笑むアヤカとトオル。

声「……トオルさん」

3 病院の待合室

居眠りしているトオル。

目覚めると、看護師がトオルの顔を覗き込んでいる。

トオル「(夢から覚めて)……」

看護師「診察室へどうぞ」

4 診察室

白衣を着た中年の男性医師と向かい合っているトオル。

医師「体調はどうだい？」

トオル「あんまり良くないですね。でも薬で吐き気はずいぶん治まりました」

医師「病気のこと、家族に伝えた？」

トオル「おふくろは昔、オレと同じ病気で亡くなりました。親父は行方不明です。能登の実家にはばあちゃんがいるけど、心配かけたくないんです」

医師「これから病気を一人で背負っていくのは、大変だよ。信頼できる人がいたら打ち明けておいた方がいい」

トオル「(沈痛に)……」

5 金沢の街を走る車の中

ハンドルを握るトオル。助手席にオネエ所長がいる。

オネエ所長「病院行ってきたんでしょ。体調悪かったら休んでいいのよ、トオルちゃん」

トオル「平気ですよ。ゆうべ、ちょっと飲み過ぎただけだから」

オネエ所長「(苦笑して)またスナック香澄に行ったのね」

トオル「さすが名探偵！」

オネエ所長「名探偵じゃなくたって分かるわよ。トオルちゃんはほんとにアヤカのことを好きなんだから……ねえ、どうしてアヤカを好きになったの？」

トオル「バス停まで走ってたんですよ、彼女(遠い目になる)」

6 バス停付近(回想)

アヤカ「バイトに遅刻する～～！」

大学生っぽい格好をしたアヤカが血相を変えて走っている。

その姿を信号待ちの車の運転席から見ているトオル(横にオネエ所長が乗っている)。

トオルのM「女子大生が街んなかで全力疾走ですよ。しかも陸上部走りで」

しっかり腿を上げ、手を振って疾走するアヤカ。

車のトオル「(微笑んで見ている)……」

7 もとの車内

オネエ所長「アヤカ、トオルちゃんのことゲイだと思ってるのよ。早く誤解、解きなさい」

トオル「(寂しそうに)いまのままでいいんです」

オネエ所長「(意外そうにトオルの横顔を見つめて)……」

8 賑わう夜の片町

9 「スナック香澄」店内

アヤカとトオルが話している。

トオル「探偵の特技は隠し撮りなんだ。ほら、これがいま、こっそり撮ったアヤカちゃん(とスマホの画像を見せる)」

――カウンターのなかで笑っているアヤカ。

アヤカ「(目を見張って)いつの間に撮ったんですか！ 全然分からなかった！」

トオル「(ドヤ顔でVサイン)」

10 アヤカの写真

水着姿や花火大会、廃線跡を歩いた時のアヤカの隠し撮り写真。

11 トオルの部屋

壁に貼られたアヤカの写真。

愛おしげに見つめているトオル、その目から涙があふれ出す。

1 2 「居酒屋まわり道」店内(別の日の夜)

トオル「(食べ終えて席を立ち)ごちそうさまでした」

末吉「毎度あり、トオルちゃん！」

トオル「アヤカちゃん、またね(とアヤカに手を上げて店を出て行く)」

アヤカ「(トオルの姿を見送って)……」

1 3 アヤカの回想(第15回)

トオル「オレ、アヤカちゃんのそういうところ好きねんちゃ」

1 4 もとの店内

放心しているアヤカ。

その姿を見ているカウンター席の美鈴(私服姿)とサトシ。

美鈴「(クスッと笑い)恋する女の子の目になってるよ、アヤカ」

アヤカ「(真っ赤になって)そんなんじゃないですよ！ だってトオルさんは……(と言い淀む)」

美鈴「彼はゲイじゃないわよ。(小声でサトシに)どっかの誰かさんと違って」

サトシ「(ムキになって)だから僕はバイだって！」

アヤカ「(小首を傾げて二人を見て)……？」

美鈴「彼をゲイだと思ってるのはアヤカだけ」

サトシ「アヤカちゃんはおっちょこちょいなんだから」

末吉「(頷いて)ほんとほんと」

アヤカ「え～～、そうなんですか！(と笑顔が弾ける)」

1 5 「まわり道」表の道

窓越しに見えるアヤカの笑顔(美鈴とサトシ、末吉と談笑している)。

電信柱の陰に隠れたトオルがアヤカを見つめている。

その時、トオルの表情が苦痛に歪む。

トオル「(体を折り曲げて苦痛に耐えて)……」

1 6 オネエ所長のマンション

ネグリジェ姿のオネエ所長が怪訝な表情で玄関ドアを開くと、トオルが立っていた。

オネエ所長「(驚いて)どうしたのトオルちゃん、こんな夜中に……」

トオル「……すみません」

オネエ所長「もしかして夜這い？ それなら大歓迎だけど」

トオル「(思い詰めた表情で)所長……オレ、もうじき死ぬんですよ」

オネエ所長「(たじろいで)よしてよ、悪い冗談は……」

トオル「オレがもっと年上なら手術もできたんです。でももう遅いって……オレ、怖いんですよ」

。怖くて怖くてたまらない」

オネエ所長「トオルちゃん……(と言葉を失って)」

凍り付いたように固まっているトオルとオネエ所長。